

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第311号 平成10年11月



『モンゴルの黎明』 川崎健一郎

目 次

	頁		頁
1. 理事会報告	広報部 … 2	4. 文芸随筆諸事百般	
2. 会員通知・医師会の動き	事務局 … 6	モンゴル苦行	川崎健一郎 … 13
3. 各部だより		5. 地区だより	
介護保険研修会	地域医療部 … 8	福生地区研修旅行	田村啓彦 … 16
学術インフォメーション	学術部 … 9	6. 伝言板	広報部 … 17
青梅市立総合病院外来診察分担表		7. お知らせ	事務局 … 17
	広報部 … 12	8. 表紙のことば	川崎健一郎 … 18
		9. あとがき	片平潤一 … 18

理事会報告

★ Information

10月定例理事会

平成10年10月8日

西多摩医師会館

【1】 報告事項**(I) 多摩ブロック医師会会長報告**

(宮川会長)

下記要望書の提出について

- ① 各種検診事業の拡大及び充実に対する要望書 (東京都医師会会長宛)
 - ② 4歳未満の乳幼児医療費助成制度に関する要望書 (東京都市長会会長宛)
- 多摩ブロック会長会としてそれぞれ提出した。

(II) 各部報告

(担当部長)

(病院部) 定款施行規則に記載する会務の分担(案)について、他部との関連など調整を要するので引き続き検討・協議する。 (坂本理事)

(学校部) 第14回西多摩学校保健連絡協議会の開催について (星野理事)

日時: 11月26日 午後2時

場所: 青梅市教育センター

講演: 小児ぜん息について

講師: 東京医科大学小児科助教授 武隈 孝治 先生

多数の先生方のご出席をお願い致したい。

(III) 各地区会よりの報告

(各地区長)

(青梅) 10月16日 会館整備問題等について懇談会を開催予定。

(福生) 介護保険審査会委員の報酬について地区長に行政より提示があった。福生市医師会としては保留。

(羽村) 9月28日 羽村市議員の厚生委員会メンバーと医療関係問題につき会合。

(あきる野) 社協の介護保険経営協議会委員に小机理事が推薦された。

(瑞穂) 特になし。

(日の出) //

【2】 報告承認事項**(I) 入会会員について**

— 承認 — (玉木理事)

(II) 西多摩地域保健医療計画推進協議会委員の推薦について

— 承認 —

宮川 栄次 先生 小机 敏昭 先生

唐橋 善雄 先生 星 和夫 先生

【3】 協議事項**(I) 西多摩医師会ホームページについて**

パソコンより映写、多数の会員の活用を願いたい。

(II) 会館整備検討委員会の設置について

委員会の内容、委員の人選等は継続協議とする。設置については承認する。

(III) 平成11年度自治体よりの諸手当についての要望書提出の報告**(IV) 瑞穂郵便局より産業医の推薦依頼について**

(瑞穂医師会会員に産業医資格の先生いないため、高水地区長より)
次回以降推薦を行う。

(V) 青梅簡易裁判所民事調停委員の辞退及び委員の推薦について

青梅医師会にて検討されたい。

10月定例理事会

平成10年10月20日

西多摩医師会館

【1】 報告事項**(I) 都医地区医師会長協議会報告**

(宮川会長)

1. 都医からの伝達事項**(1) 第25回日本医学会登録推進について**

西多摩・登録数14 (目標 53)

(2) 文化放送小倉智昭の心配ご無用の中止について

10月2日をもって終了となる。

(3) 第12回医療とニューメディア・シンポジウムの開催について

H10.11.26 午後2時より、多くの会員の参加を依頼している。

(4) 学校におけるインフルエンザ予防及び発生時の措置について

協力体制を確立する。感染予防のための措置 (家庭に対する連絡等)
患者発生時の措置 (出席停止又は臨時休業等)

(5) 平成10年度在宅難病患者緊急一時入院事業の増床について

2床増床する。(都立駒込病院1床、都立神経病院1床)

- (6) 都内の医療機関における禁煙外来等の実施状況調査について
このアンケートをするので協力してもらいたい。
- (7) 東京都産業廃棄物実態調査の実施について
全病院と5%の診療所について5年に一度実態調査をするのでアンケートに協力してもらいたい。
- (8) 東京都保健医療計画及び地域保健医療計画の平成10年度改定案について
5年に一度この計画について改定案が出される。
- (9) 老人保健施設設置状況について
56施設。
- (10) 地区医師会介護保険担当者名簿について
当医師会は玉木、石田理事である。
- (11) 老人訪問看護ステーション設置状況について
226施設となる。

2. 協議事項

なし

3. 地区医師会からの報告

なし

4. その他

- (1) 「介護保険制度のあらまし」について
市町村にて用意してある。
- (2) 医療連携講演会について
10月17日行われる。
- (3) 日本医師会勤務医会員について
- (4) 東京都医師会学校医会作成の冊子「学校保健－ひとくちメモ－」について
500円で配布する。
- (5) 東京都リハビリテーション病院在宅リハビリテーション科活動報告について
参考にして下さい。

(II) 市町村国保主務担当者との懇談会報告

(唐橋理事)

担当者とはばひろく懇談、意見と情報の交換が行われた。

(III) 各部報告

(IV) 各地区会よりの報告

(各地区長)

(青 梅) 10月16日 懇談会

会館整備問題に関しては会員間で論議が未だ煮つまっていない。

青梅簡易裁判所民事調停委員の件について。

(福 生) 10月17日 BML総合研究所、研修旅行を行った。

(羽 村) 10月10日 羽村健康フェア開催、27名のDr 参加。

(あきる野) 10月19日 例会。

(瑞 穂) 特になし。

(日の出) 10月8日 地区会。介護保険・会館整備問題の話し合い。

(V) その他

瑞穂郵便局産業医報酬の件

西多摩健康フォーラム'98開催 11月22日(土)

【2】 報告承認事項

(I) 入会会員について

— 承認 —

(玉木理事)

(II) 瑞穂郵便局産業医の推薦について

— 承認 —

新 井 敏 彦 先生

【3】 協議事項

(I) 会館問題検討委員会の設置について

会長諮問の委員会として会館問題検討委員会を設置し、あり方を検討して行く。

各地区から1～2名の委員を11月中に推薦する。

(II) 平成11年度自治体よりの諸手当について

(III) 平成10年忘年クリスマス会

12月21日、あきる野ルピアにて

(IV) 病院部設置について

継続協議。これとは別に新たに発足された西多摩地区病院会に関して設立の経緯と今後の方針などにつき、西多摩地区病院会会長より11月理事会にてお話しをうかがう予定。

(V) 歯科医師会と医師会との情報提供書の書式について

歯科治療における局所麻酔の使用および手術・処置に係わる注意事項などにつき書式を検討して行く。

会員通知

- 学術講演会 (10/14)
- 日本産業医衛生学会産業医研修会案内
- 会報
- 会員名簿訂正等について
- 診療報酬点数表の改正等に伴う実施上の留意事項について
- 平成10年度東京都医師会主催日本医師会生涯教育講座 (12月～3月期) の開催について
- 「西多摩健康フォーラム'98」開催案内
- ポスター (東京都の難病医療費助成)
- 特殊疾病 (難病) 患者の診断の手引 (追録)
- 特殊疾病 (難病) 患者の治療及び生活指導の手引 (追録)
- 青梅医師会勉強会案内
- 社会福祉医療事業団が開催する「平成10年度第2回介護保険対策セミナー」について
- 平成10年度第2回日本医師会「認定産業医」の新規申請について
- 国民健康保険短期被保険者証の発行について (福生市)
- 慈恵医師会「産業医研修会」の開催について

医師会の動き

医療機関数	189	病院	29
		医院・診療所	160
会員数	400	A会員	179
		B会員	221

会議

10月8日	定例理事会
13日	自治体国保担当者との懇談会
16日	在宅難病調整委員会
20日	定例理事会
23日	会報委員会
〃	在宅難病患者訪問診療

講演会・その他

10月8日	整備会
14日	法律相談
〃	学術講演会
	講師：福生病院院長 中谷 矩章先生
	演題：高コレステロール血症に 対する新戦略
21日	学術講演会
	講師：青梅市立総合病院 診療局長 宮崎 崇先生
	演題：医療訴訟とインフォームド コンセント

各部だより**地域医療部****介護保険研修会**

平成12年4月スタートの介護保険のためのモデル事業が、全国各市町村での本年9月より開始されました。

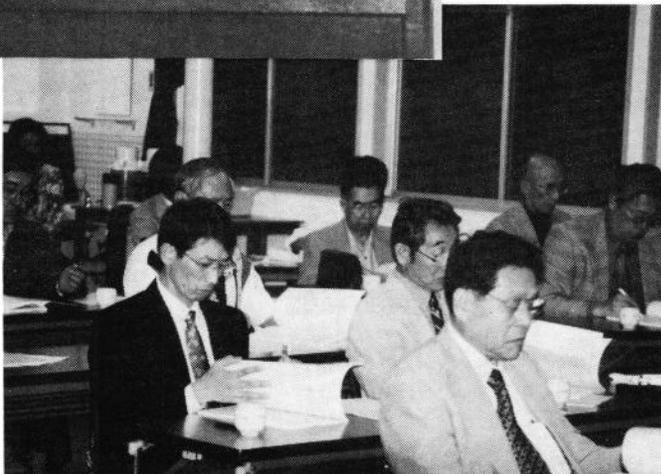
今回西多摩医師会でもそれを受け、10月5日、西多摩医師会館で33名の出席のもと、モデル介護保険認定審査事業に関わる「“かかりつけ医意見書”の作成について」と題して研究会を行いました。

医療福祉のシステムが今後大きく変化していく中、介護保険がその分岐点となると考えられます。

当医師会におきましても、介護保険に医療の必要性を反映させるため、積極的に取り組んでいきたいと考えます。

諸先生方の多くの御意見を是非お寄せ下さい。

(石田信彦)





学術部 Information



〈学術講演会聴講メモ〉

平成10年9月16日(水)

演 題：「不定愁訴と漢方」

講 師：慶応義塾大学病院漢方クリニック副部長 福 澤 素 子 先生

(1) 気逆

(診断基準) 冷えのぼせ・動悸発作・顔面紅潮・発作性頭痛・臍上悸・怒責を伴う咳嗽など。

(治療方剤) 苓桂朮甘湯・桂枝加竜骨牡蛎湯・加味逍遙散・桃核承気湯・呉茱萸湯など。

(2) 気うつ

(診断基準) 抑うつ傾向・頭重感・喉のつかえ感・腹部膨満感・噯気・排ガスが多い・腹部の鼓音など。

(治療方剤) 半夏厚朴湯・香蘇散・女神散・柴朴湯・半夏白朮天麻湯・柴胡加竜骨牡蛎湯・黄連解毒湯など。

(3) 気虚

(診断基準) 身体がだるい・気力がない・疲れやすい・内臓のアトニー症状(胃下垂・子宮脱・脱肛など)・食欲不振・かぜをひき易い・日中の睡気など。

(治療方剤) 人参湯・四君子湯・六君子湯・茯苓飲・半夏白朮天麻湯・補中益気湯・小建中湯・黄耆建中湯・当帰建中湯など。

(4) 瘀血

(診断基準) 眼輪部の色素沈着・皮膚の甲錯。

(サメ肌) シミ・ソバカス・細絡・口唇や歯肉・舌の暗赤化・痔・月経障害・臍傍圧病抵抗など。

(治療方剤) 桃核承気湯・大黃牡丹皮湯・桂枝茯苓丸・加味逍遙散・芎帰膠艾湯・当帰芍薬散など。

(5) 血虚

(診断基準) 集中力低下・不眠・眼精疲労・めまい・こむらがえり・顔色不良・皮膚の乾燥と荒れ・赤ぎれなど。

(治療方剤) 四物湯・温清飲・十全大補湯・帰脾湯など。

(6) 水滞

(診断基準) 身体の重いかんじ・拍動性頭痛・尿量減少・多尿・浮腫傾向・胸水・心嚢水・腹水など。

(治療方剤) 五苓散・苓桂朮甘湯・苓姜朮甘湯・八味地黄丸・当帰芍薬散・真武湯・防已黄耆湯・小青龍湯・苓甘姜味辛夏仁湯・小半夏加茯苓湯・茯苓飲・人参湯・半夏白朮天麻湯など。

(7) 血の道症：成人女性のみにかかる病態で女性特有のホルモンの変化に伴う生理現象。

(症状) 熱感・のぼせ・顔面紅潮・冷え・心悸亢進・腰痛・背部痛・筋肉痛・肩こり・知覚過敏・鈍麻・しびれ感・蟻走感・倦怠感・脱力感・疲労感・頭重・頭痛・めまい・立ちくらみ・不眠・嗜眠・イライラ・不安・易怒・かゆみ・多汗・口乾・頻尿・便秘・下痢・月経異常など多彩。

(治療方剤) 加味逍遙散・女神散・柴胡加竜骨牡蛎湯・桃核承気湯・桂枝茯苓丸・当帰芍薬散・半夏白朮天麻湯・半夏厚朴湯・柴胡桂枝乾姜湯・桂枝加竜骨牡蛎湯・抑肝散など。

(8) 症状と治療方剤

(ア) 冷え性：桃核承気湯・桂枝茯苓丸・加味逍遙散・当帰芍薬散・当帰四逆加呉茱萸生姜湯・真武湯など。

(イ) 冷えのぼせ：桃核承気湯・柴胡加竜骨牡蛎湯・黄連解毒湯・桂枝茯苓丸・温経湯・桂枝加竜骨牡蛎湯・加味逍遙散・八味地黄丸など。

(ウ) 動悸：柴胡加竜骨牡蛎湯・半夏厚朴湯・柴胡桂枝乾姜湯・苓桂朮甘湯・桂枝加竜骨牡蛎湯など。

(エ) めまい：柴胡加竜骨牡蛎湯・女神散・半夏厚朴湯・釣藤散・半夏白朮天麻湯・苓桂朮甘湯・当帰芍薬散・加味逍遙散・桂枝加竜骨牡蛎湯・八味地黄丸・真武湯など。

(オ) 耳鳴り：柴胡加竜骨牡蛎湯・大柴胡湯・防風通聖散・三黄瀉心湯・黄連解毒湯・柴蘇飲・五苓散・当帰芍薬散・釣藤散・苓桂朮甘湯・八味地黄丸など。

(カ) 頭痛：呉茱萸湯・釣藤散・五苓散・加味逍遙散・当帰芍薬散など。

(キ) 多汗症：防已黄耆湯・柴胡加竜骨牡蛎湯・加味逍遙散・柴胡桂枝乾姜湯・十全大補湯・補中益気湯など。

(ク) 胃部不快感・もたれ：人参湯類・加味逍遙散・安中散・柴胡加竜骨牡蛎湯・真武湯など。

(ケ) 過敏性腸症候群：桂枝加芍薬湯・桂枝加芍薬大黄湯・小建中湯・大建中湯・加味逍遙散・真武湯・人参湯など。

(コ) 不眠：柴胡加竜骨牡蛎湯・黄連解毒湯・半夏厚朴湯・加味逍遙散・加味帰脾湯・酸棗仁湯など。

(文責：野本)

◀ 11月 ▶

西多摩医師会学術講演会のご案内

- 1 日 時：平成10年11月11日(水) 19:30～
場 所：西多摩医師会館 青梅市西分町3-103 TEL 0428 (23) 2171
演 題：『慢性胃炎、診断と治療』(最近の考え方)
杏林大学 第三内科 助教授 高 橋 信 一 先生
共催：大日本製薬(株)

三公立病院学術講演会のご案内

- 日 時：平成10年11月25日(水) 19:00～
場 所：あきる野市 ルピアホール
演 題：
1. 小児疾患に対する核医学検査の新しい応用
福生病院 小児科 松 山 健 先生
 2. 急性腎不全の臨床
公立阿伎留病院 内科 ^{よもぎ} 蓬 田 茂 先生
 3. 血球減少の診断
青梅市立総合病院 内科 今 井 康 文 先生

広報部

青梅市立総合病院 外来診察分担表

平成10年10月1日現在

診療科	月	火	水	木	金	備考
総合担当	桜井(徹)	幸野・室賀	伊 藤	廣 野	福 岡	専門別担当医
新患担当	宮川・金沢	今 井	太 玉	桜井(神)	室 賀	循環器病 坂本・金沢・芦川 消化器病 宮川・細井・本田 血液病 今井・小山 リウマチ病 桜井(徹) 膠原病 栗山・室賀・伊藤 甲状腺病 須賀原 糖尿病 須賀原 神経内科 松本
内分沁代謝科	原・須賀原	原	桜井(神)		原	
腎センター	栗 山	(室賀)	(伊藤)	栗 山	(室賀)	
呼吸器科	大 玉	高 野		大 玉	高 野	
消化器科	宮 川	細 井	本 田	宮 川	細 井	
循環器科	坂 本	芦 川	金 沢	坂 本	芦 川	
外科	正 木	山 田	宇 田	宇 田	山 田	
胸部外科	佐 野	畑 尾	藤 田	森 田	佐 野	
脳神経外科	森	宮 崎	長 谷 部	鬼 頭	宮 崎	
整形外科	日 野 日 野 原 田 堀 山	堀 本 田 清	巢 野 日 野 山 原 堀 山	堀 本 田 清	巢 野 山 原	
産婦人科	妊婦	高 野	古 賀	小 倉 倉 守	石 川	平成10年2月2日から、外来医師が帰国
	婦人科	陶小依古	守倉光賀	高陶古石	野守賀川	
皮膚科	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	田 嶋	
泌尿器科	友 石	小 山	岡 本	友 石	非常勤医師	
小児科	加 林 加 林	崔 谷 八 平	八 林 加 谷	崔 岡 平 加	平 林 八 岡	
眼科	瀬口・福井	瀬口・福井	非常勤医師	福 井	瀬口・福井	
耳鼻咽喉科	根 岸	根 岸 角	根 岸 非常勤	角	根 岸 角	
神経科	新患	石平 黒山	渡 辺	渡 横 渡 田	石 原	午後予約 石原・渡辺 石原・黒山 石渡・黒山 火水木金
	再 診	石 原	石 原 午後・渡辺	石 黒	午後・渡辺	
	来 院	平 山	渡 辺	横 田	渡 辺	
放射線科	午前	佐藤(IVR)	福田(給)	佐 藤	田 中	石田(RI)
	午後			福 田(泰)	佐 藤	田 中
リハビリテーション科	中島(課のみ)	中 島	中 島	中 島	中島(課のみ)	
口腔外科	吉 田	佐 野	体 診	高 久	今 井	

※ 内科の は予約

文芸随筆諸事百般

モンゴル苦行

川崎 健一郎

「難行苦行」の旅は第1日目から始まった。そしてその後何回も強制的にサバイバルゲームに参加させられたような目に逢ったので、「モンゴル紀行」が「モンゴル苦行」になってしまったのである。先ずは第1日目。午後1時に成田を発った大韓航空KE702便はソウルが豪雨だったので約30分間上空を旋回して待機し、金浦空港に着陸したのは午後3時半を過ぎていた。そして初めの予定では午後7時にソウルを発ち、午後10時半にはウランバートルに到着ということだったが、韓国とモンゴルとの航空協定がこじれた、とかで、ソウル出発は午後10時半に変更というのである。ナント、7時間も待たなければならないのである。その上「通過旅客」のシールを胸にペタンと貼られているので、外に出ることもできず、そうかといってレストランで7時間もねばる訳にもゆかず、免税店を7時間も歩き廻る訳にもゆかず、サテ、どうするかなと思ひながら歩いていたら、たまたま空港内の案内板が目に入り、仮眠室があることが判り、シングル2時間10ドルを払って眠ることにしたのだが、集合時間が気に掛って結局5分か10分ウトウトとただけだった。ところで、モンゴル航空OM8032便が金浦空港を飛び発ったのは午後11時で、これは金浦空港の最終便であり、モンゴル航空が韓国でいかに冷たい扱いを受けているかが判るのであった。という訳でわれわれがウランバートルに着いた時にはすでに午前2時を廻っていたのである。そして翌朝、といってももうすでに第2日目になっているのだが、午前8時には南ゴビを目指して飛び発つというので、リュックの荷物の入れ替えなどで時間が掛り、

ホテルのベッドにもぐり込んだのはもう午前4時に近かった。朝食は午前6時だというのでロクスッポ眠る時間はなく、定刻の8時にはウランバートル空港を飛び発ち、1時間余りで吹き流しが1本立っているだけの草原の滑走路に着陸したのである。飛行機を降りると、そこはもうツーリスト用のキャンプ地で、木の柵だけが滑走路との境界なのであった。管制塔もないし格納庫もなく、ゲートもない。

キャンプ地にはゲル（移動用住宅、中国ではパオという）が30余り建っていて、食堂とトイレ・シャワー室はそれぞれ別棟にある。1つのゲルには3つのベッドがあるので、3人が1つのゲルで寝ることになった。昼食まで少し時間があつたのでゲルの中でひと休みして、午後は風と共に移動するといわれているモルツォク砂丘を見に行つたのだが、われわれが乗ったマイクロバスは、およそ日本では想像もできないようなボロボロで、助手席側のフロントガラスは放射状にひびが入っていて、中心部は銃弾が撃ち込まれたのかと思われるような穴があつて、両側からガムテープが貼つてある。——これでも観光客用のバスなのである。——さて、バスはうねりのあ



る草原をスピードを落とすこともなく走るので、腸捻転をおこすのではないかと心配になった。——パリ・ダカールラリーを一瞬思い出した。——1時間余り走ったところで目的地に着いた。すると、まるで大地から湧き出たかのように、馬に乗った子供達、ラクダを連れた母親と女の子、そして土産物をおやじさん達が現われた。土産物といっても小さな骨董品的なもので、それを地べたに並べて黙って坐っているだけで、「サア!!みなさん、おみやげにどうですか」なんてことは言わないのである。ラクダを連れている小母さんも、乗りたいというお客が来るまでは、何も言わずにラクダの横に立っているだけで、商売気がないというのか、とにかく悠々迫らざるといった感じである。大草原の中で自給自足の生活をしていると、自然とそうなるのかも知れない。

さて、南ゴビでは星空を眺めるのを楽しみにしていたのだが、前夜の睡眠不足のため、ついに星空を観ることもなく、夕食が終るとすぐにベッドにもぐり込んで何も知らずに朝まで寝ってしまった。翌日は7時に朝食、8時には草原の滑走路を飛び発ち、10時を少し廻った頃にはもうウランバートルのホテルに居たのである。その日、わたしが一番うれしかったことは、国立オペラ・バレエ劇場でホームミーを聞くことができたことである。

そもそも、わたしはこのホームミーを聴きたくてモンゴルツアーに参加したのだから第一の目的は達したことになるのである。

翌日(第4日目)はウランバートルの南西約350kmのところにあるブルドという集落(ここはカラコルム遺跡観光のベースキャンプ地である)を目指して2台のマイクロバスに分乗してホテルを出発した。

市街地を抜けると、道はどこまでも一直線(時には数十キロも)で、350kmの間に信号は一つもなく、両側は、果てしなく広がる大草原で、時たま馬、牛、羊、ラクダの群が草を食っており、その付近には遊牧民のゲルが2戸、3戸、4戸と見えるだけで、ドライブ

インはおろか、公衆トイレもないのである。ただしガソリンスタンドは2ヶ所あったが、看板なんかは全然出しておらず、給油装置があるのでそれと判るだけである。

ところで、350km約7時間のドライブともなると、途中でいわゆる「トイレ休憩」もしなければならぬが、そんな時、男性はどうということもないが、女性は大変である。

国道の周りは見渡す限りの大草原で、一本の木も生えていない。2時間位走った頃にバスが路肩に止ると、添乗員(女性)が重々しく次のように命令を下したのである。

「男性はバスを背にして向うを向いてください。もういい、というまでは決して振り向いてはいけません。女性は折りたたみ式の傘を持って反対側の草原へ行行って、傘の陰に身を隠して用を足しなさい。——そんなこと言たって頭かくして尻かくさず、イヤそうではない。尻を隠せど頭隠れずではないか。——マア、そんなことはどうでもいい。判りましたネ。それではどうぞ」というわけで、男性はバスを降りると直ちに横一列になって一斉に砲列を敷いて放尿したのだが、その間約1分程である。一方女性達はバスを降りると、さながらクモの子を散らすように放射状になって草原の中へ中へと歩いて行くのだが、だれが最初にしゃがむかが問題のようである。

だれかがしゃがむまで、みんなはただ黙々と歩き続けるのである。そして遂に勇氣ある人?がしゃがむと、トタンにその隣の人はそれよりほんノ少し先の方へ行行ってしゃがむ。するとそのまた隣の人も同じようにする、という訳で、数分後には大草原の中に点々と傘の花が咲いたのであった。それにしても最後にしゃがんだ人は、実に数百メートルもバスから遠ざかっていたのではないだろうか。

「見てはいけない」と言われるとなお見たくなるのは人情らしいが、男性達は前方の草原の単純な風景にも飽きたし、その上時間を持って余したので殆どの人達はがまんできずに振り返ったという次第であった。わたしもそのひとりだが、全部見ていた訳ではないので

以上の光景がどこまで正確であるかは保証の限りでない。それはともかく、青天井の下で、しかも大草原の真只中での排泄行為が、いかに快適なものであるかは、戻って来た女性達の顔を見れば良く判るのであった。だれもかれもみんな晴ればれとした顔をしていたのであった。ところで、女性達が用を足した時に使った紙はどうするのか？添乗員がバスの所でビニールの袋を持っていて、その中に入れるというしくみになっていたのである。

さて、ブルドのキャンプ地へは舗装された国道から別れて、草原を数キロ走らねばならないのだが、前日来の雨で大地は軟らかくなっていて、ぬかるみを走り抜けるのには大変な苦勞をしたのであった。やっとのことでブルドに着き、ここのゲルに3泊することになったのだが、その夜早速サバイバルゲーム？が始まったのである。夜半過ぎ頃だったろうか、フェルトの屋根をたたたく激しい雨音に目を醒され、相当な降りだな、と思っていたところポトリと顔に雨が落ちて来たのである。これは大変だ!!と真暗な中で懐中電灯を探したのだが、枕元に置いておかなかつたのが間違いで、手探りであっちこっちと探したがダメだったので、仕方がないので、ぐっすり眠っている2人を起こしては気の毒だとは思ったが、大声を出して起きてもらい、電灯（ここのゲルには電灯があった）を灯けて、頭と足の位置を逆にして寝ることにしたのだが、こんどは足が冷たくて（マットレスはすでに寝小便をしたように濡れている）寝付かれないまま朝になってしまった。そのゲルで、そのベッドであと2泊しなければならぬのかと思うと全く憂うつだった。また、夜は、殊に明け方は、結構冷え込むので、薪ストーブが置いてあるのだが、薪が湿っていて燃えず、結局厚手のセーターを着込んでやっとなんか寒さをしのぐ有様だった。

次の日はモンゴル帝国の最初の首都だったカラコルム遺跡観光に出掛けたのだが、天気はくもり時々雨で舗装されていた国道は、しばらく走った所で舗装工事中のため通行止め

となり、バスは草原を蛇行しながら走る事になった。雨でぬかるんだ草原の走行は、アフリカのラリーそっくりで、上下運動や横すべりの連続で、あげくの果てにスリップして動けなくなってしまった。添乗員の要請もあり、男性5～6人が雨の中、ぬかるみの草原に降りてバスを押してやっとなんか脱出に成功し、なんとかカラコルムにたどり着くことができた。ところで「行きはよいよい帰りはこわい」という言葉があるが、カラコルムからの帰りは本当にそうなのである。行きに苦勞した例の草原のド真中で完全に動けなくなったのである。タイヤは空廻りをしていたずらに大地を掘って穴を深くするだけである。携帯電話なんて勿論ある訳がなく連絡のしようもない。あるご婦人は「ブルドまで歩いて帰らなければならないのかしら」と不安そうに呟いた。冗談ではない。重たいリュックを背負って雨の中を40kmも歩いたとしたら夜が明けてしまうではないか。車内にはあきらめムードが漂い始め、みんな口数が少なくなってしまった。運転手も現地のガイドも添乗員も、処置なしといった顔である。そんな状況下でどの位の時間が経ったのだろうか。フト、遙か彼方から車が1台こちらに向かって来るではないか。近付いて来た車は大きな大きな車輪の四輪駆動車で、牽引にはもってこいの車である。車内にはやっとなんか明るい空気が流れ始めた。引張ってもらい、自力で走り出したが100メートルも走らない内にまたもスリップ。幸いなことにうしろには未だ例の車が付いてくれたので又もや引張ってもらってぬかるみから脱出、ところが数十メートル走った所でまたスリップ、ということで合計3回も牽引車のお世話になり、やっとの思いで舗装道路に出ることができたのである。この牽引車はこの後日本人の観光客を乗せたバスをもう2台救出に向うということだった。モンゴルの草原は、馬やラクダなら雨が降ってもスリップして動けなくなることは無いが、車はそこに点全くだらしないと思った。サバイバルゲーム？は一応これで終わったが、最後にひと言。

走っている車を見れば判ることだが、——殆どの車は疵だらけの中古車で、日本ならポンコツ扱いにされる車である——モンゴルという国は貧しい。

だがしかし、モンゴルの人の心は豊かであり、大草原の住人に相応しいと思えるのであった。

付 記

今回のツアーで終始行動を共にしたのは、H氏、Kさん、Uさん、そして横浜から参加したY氏だった。われわれ5人は傍目には同一家族と思われていたようで、息子夫婦と孫

夫婦が、おじいさん（わたしのこと）の面倒をみていると思っていたらしい。それにしても、わたしはこの4人の方々にいろいろと本当にお世話になった。この紙面を借りて厚くお礼申し上げる次第である。

* * *

「ホーミー」について

ひとりで一度に2つの音（高音と低音）を出してうたう唄い方。低い声でメロディを歌いながら、同時に高音を出して伴奏の役をする唄い方である。この唄い方はモンゴルの周辺の民族にもあるそうである。

地区だより

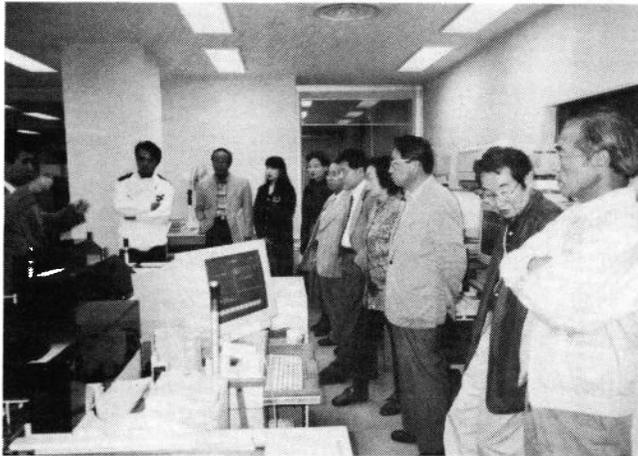
福生地区

日帰り研修旅行

去る10月17日、台風10号の接近で終日秋雨が降り続くなか、福生地区会の研修旅行が11名の参加を以って行なわれました。

日頃お世話になっている川越のBML総合研究所を見学し、オートメーション化された検査・分析システムに一同感嘆した後、江戸・明治の情緒ある行まいを今も残し、川越まつりの宵山で賑わう菓子屋横丁で買物を楽しみ、夕食は川越名物のサツマイモビールで乾杯の後、ワインを飲みながらステーキに舌鼓を打ちました。

(田村)



伝言板

中中 西多摩医師会写真部写真展 中中

会期：11月24日(火)～11月30日(月) 11時～18時(初日15時より)

会場：羽村市コミュニティセンター 2階ロビー

お知らせ

事務局より **お 知 ら せ**

平成10年12月(11月診療分)の

保 険 請 求 書 類 提 出 日

12月8日(火)

— 正午迄です。 —

法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を
毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽に
ご相談下さい。

- ◎ 相 談 日 11月は11日(水)
12月は9日(水)の予定です。
 - ◎ 場 所 西多摩医師会館和室
 - ◎ 内 容 医療、土地、金銭貸借、親族、相続問題等民事、
刑事に関するどのようなものでも結構です。
 - ◎ 相 談 料 無 料(但し相談を超える場合は別途)
 - ◎ 申 込 方 法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
- (注) 先生の都合で相談日を変更することもあります。

表紙のことば

『モンゴルの黎明』

モンゴルという国は、今はまだ眠っているがこれから発展する国である。わたしもまたそれを願って、明るく希望に満ちた日の出の光景をカメラに納めようとしたのだが、所詮わたしの技術では無理だった。ゴメンナサイ。

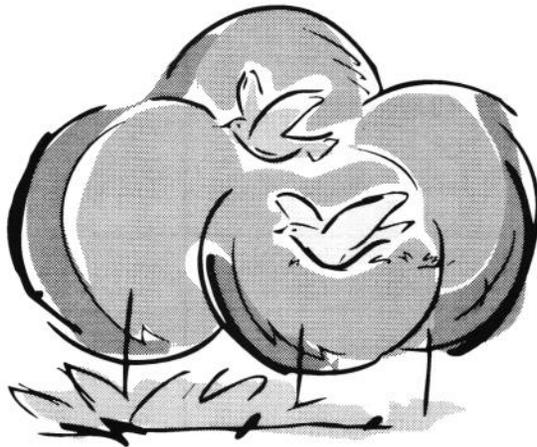
川崎健一郎

あとがき

西多摩医師会館を今後どのようにしていくのかを検討する「会長諮問の会館問題検討委員会」が設置されることになりました。各地区より1～2名の委員を推薦していただき、今後1年程度の間結論を出すこととなります。会館整備積立金への課税をどうするのかからはじまった問題ですが、移転するかどうかも含めて、会員諸氏の間でまだ議論が煮つまっているとは思えません。

医師会活動と関連して会館のあり方を各地区レベルで徹底して話し合っていたきたいと思います。

片平潤一



社団法人 西多摩医師会

平成10年11月1日発行

会長 宮川栄次 〒198-0044 東京都青梅市西分3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 神尾重則

石井好明 片平潤一 清水佐和道 高水松夫

田村啓彦 樋口昭夫 横田卓史

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

忘年クリスマス会

12月21日(月) PM 7:30 ~ 9:30

あきる野市 あきる野ルピア (東急隣り)

A会員 10,000円

B会員 5,000円

従業員の方 2,000円

お子様 無料

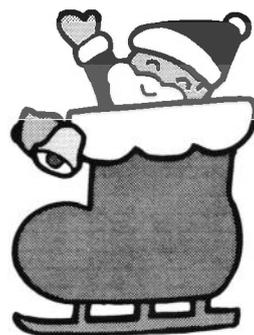
マジックショー (予定)

バンド演奏 (予定)

恒例ビンゴゲーム

地区及び会員の相互理解の増進と

地域医療の発展をめざして



R
RETAIL BANK
あさひ銀行

あなたの街の
あさひです。



あさひ銀行

東青梅支店	TEL.0428-22-2121(代)	〒198-0042	青梅市東青梅2-17-4
奥多摩 特別出張所	TEL.0428-83-2515(代)	〒198-0212	西多摩郡奥多摩町氷川1421
青梅支店	TEL.0428-22-1101(代)	〒198-0045	青梅市青梅295
河辺支店	TEL.0428-24-2401(代)	〒198-0036	青梅市河辺町10-2-9
福生支店	TEL.042-551-1021(代)	〒197-0011	福生市福生1048
村山支店	TEL.042-561-1211(代)	〒208-0001	武蔵村山市中藤4234
秋川支店	TEL.042-558-2611(代)	〒197-0831	あきる野市下代継111-5
羽村支店	TEL.042-579-0881(代)	〒205-0011	羽村市五ノ神4-13-10
五日市支店	TEL.042-596-1311(代)	〒190-0164	あきる野市五日市840-1

最新のテクノロジーが計測します
そして、人の眼と心が記録します



臨床検査のパイオニア
保健科学研究所

本社 〒240 横浜市保土ヶ谷区神戸町106 TEL/045-333-1661(大代表)
仙台支社 〒983 仙台市宮城野区扇町1-3-5 TEL/022-236-9345(大代表)